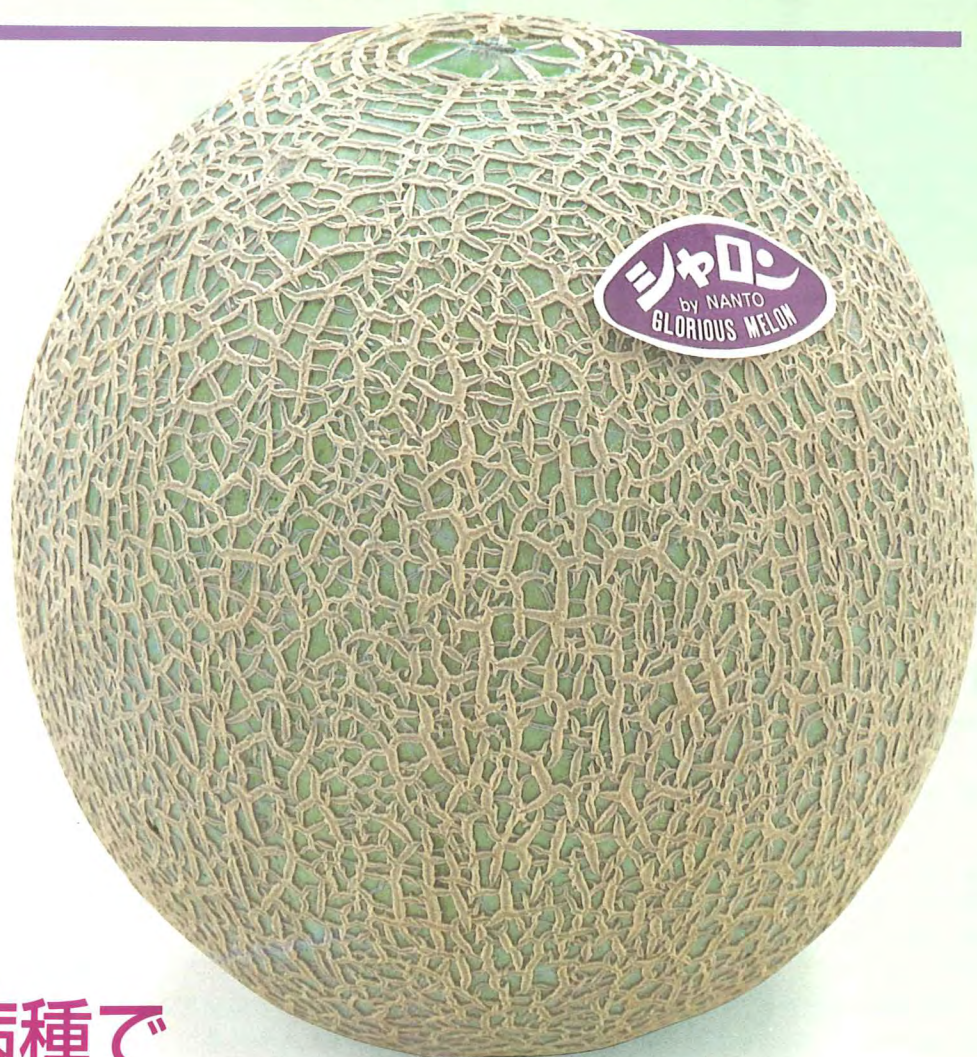


ナント交配

シャロン

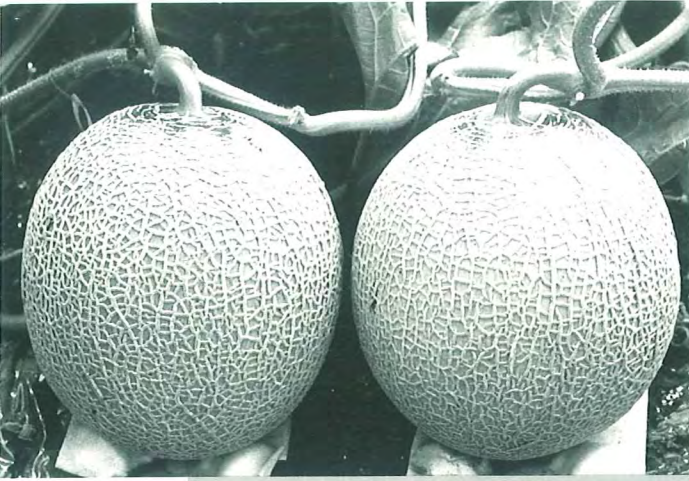


耐病種で
糖度16~17度と高く
安定する。

特性

- ウドンコ病、ツルワレ病、ツルガレ病等、耐病性に非常に強く、トンネル、ハウス地這に好適し栽培は極めて容易です。
- 果皮は 灰緑色でネットの盛り上りは中程度で美しい。果形は 高球形の1.3~1.5kgの中大果となり市場性が高い。
- 食味は アールズに近く高級メロンの品質を持ち、糖度は 平均16~17度と高く安定する。肉厚は 3.5~3.8cmと厚く、肉質はメルティング質で食味は好評です。
- 成熟日数は 開花後 45~50日の早生で、収穫後の熟度の進みは遅く果皮の黄化が少ない。

シャロンメロン栽培の要点



着果と人工授粉

- 着果時期は定植日より38～45日で、促成栽培は長く、トンネルは短くなるように温度管理を育苗日数で調節する。着果節位は、子ツルの10～13節より発生する孫ツルの第1節に着果させるとよい。
- 授粉は基本的にはミツバチ交配や人工交配が良いが、前進栽培の場合は着果ホルモン剤の利用も良い。

果実の肥大と温度管理

- 授粉作業が始まれば、果実の肥大生育を良好にするため昼間気温を3～4℃高く管理する。初期の肥大を良好にし、果皮の淡黄緑色となる程度にハウス等の換気に注意する。

ネットの発現と土壤水分

- ネットは開花後13～15日より発現してくるから、土壤水分をやや少なくし太ネットに注意して開花後30～35日目から土壤水分を低くする。肥効が少しづつ切れてくるようにすると良い。

作型と適応性

- 促成栽培の12月上旬時で、4月中旬より収穫の作型から、早熟ハウスの1～2月時で、メロンの最も食べたくなる5月～6月収穫に好適し、2月～3月時の6～7月収穫する作型に於いても醗酵することがなく秀品が多収できる。又、3～4月時の7～8月収穫の東北高冷地の栽培に於いても糖度が安定し市場性が高く、栽培の容易な耐病性種です。

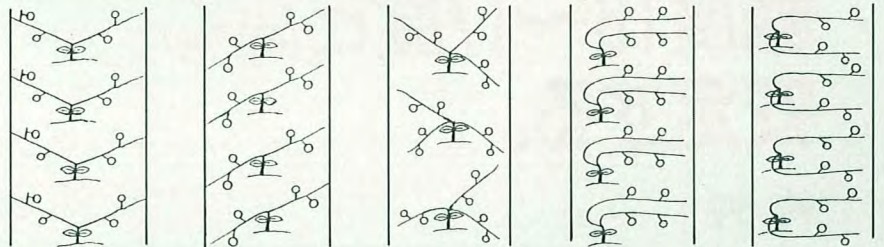
定植

- 葉色は鮮緑で、ツルは細く硬いから促成栽培は株間をやや広くして受光量を多くすると果実の肥大が良く、平均1.2～1.5kgの大果を収穫することができる。

整枝

- 早熟の4～5月開花では1子ツル2果の着果目標とした地這栽培で1株2～3本の子ツルに整枝し、1株1ケースを目標に栽培するとよい。
- 整枝は育苗日数により多少差があるが、ビニール被覆の大型は育苗日数をやや長くしやや大苗を定植する。トンネルの地這や強光線の時期の定植は株間及びツル間を広くして栽培すると果実の肥大が良く、品質の安定した秀品果を多収できる。

整枝方法例



注意点

- ①株間やツル間隔が狭い場合は、1子ツルの着果数を少なくして草勢を強く保つようにする。
- ②着果数を多くすると品質が低下するので株間を広くする。

栽培型	月別	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
ハウスⅠ		○	●	—	—	—	■	■					
ハウスⅡ			○	●	—	—	—	■	■				
トンネル				○	●	—	—	—	■	■			
ハウス抑制							○	●	—	—	■	■	

特約店